

1月えんだより

2018年1月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会
西宮YMCA保育園 園長：谷川 尚
〒662-0977 西宮市神楽町5-23
TEL (0798) 35-5992 FAX (0798) 35-6002

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙5章1節

1月聖句：

「見よ、わたしはあなたと共にいる。」

創世記28章15節

「新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。」

どの家庭でも、昨日まで起き抜けに「おはよ」とか、朝の挨拶もそこそこに「早く起きなさい...ぼーっとしてないで着替えてよ」とあわただしく一日が始まったりするでしょうが、1月1日、元日の朝だけは家族の間でもかしこまって冒頭のような挨拶を交わされることと思います。

子どもがどのように育っているのか、保育園では学期ごとに発達の様子について記録しているのですが、5歳児（ゆり組）の記録には「自らすすんで挨拶ができる」という項目があります。他にも生活や言葉、運動など様々な項目があるのですが、学期を経る中でできることが増えていく中で、この「挨拶」についてはなかなか年度途中で変化が見えにくい項目となっています。実際、朝に玄関や園舎などで顔を合わせたとき、こちらから声をかける前（おうちのひとが挨拶をするよりも前に）に自分から「おはよう」「おはようございます」といえるお友だちはそういないです。もちろんこちらが声を掛ければ、年齢が上がるごとに元気に挨拶してくれるようになりますが、なかなか「自らすすんで」というのは難しいようです。こんなご時世ですので、「知らない人に挨拶は...」というのが普通なのかもしれませんが、知っている相手に対してもこちらから声をかけるというのは年々難しさが増しているように感じます。誰でも同じように感じると思いますが、声をかけても何も声が返ってこないと不安に駆られます。声を、そしてまずは挨拶を交わすことで『あなた』を認め、ともにいますよ』とつながりが確認でき、その間柄に「包摂」があると感じることができます。

保育園では、子どもたちに他者に歩みだし寄り添うことの大切さを伝えています。困っている友だち、自分より弱い存在へとその気持ちを向けることが、ともに生きる社会の実現への第一歩であると信じ、「その体験を保育園の中で行えるように関わっています。その歩みの一歩目は「挨拶」だけではないでしょうが、自分から歩みだし「ともにいる」というメッセージが伝えられる育ちができればと願っています。「ともにいきる社会」とは遠くのものでなく、目の前にあるものと感じられる保育を目指していきます。

月主題	できたよ	じっくりと
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none">冬の遊びを楽しむあそびや生活の中で、できたことを喜んだり、やってみたいという気持ちを待つ保育者や友だちと一緒にあそぶことを喜ぶ寒い冬を元気に過ごす	<ul style="list-style-type: none">色々なことに挑戦したり、様々な経験をし、工夫したり試したり取り組む仲間と一緒にお互いの意見を言い合ったりしながらイメージを共有して遊ぶ寒さの中で守られている生命について知る

